令和４年度 第２回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
（　概　要　）

１　開催日時
令和４年９月１６日（金）13 時 30 分～16 時 00 分

２　開催場所
中部森林管理局　大会議室（対面 web 併用方式による）

３　検討内容
（１）国有林材供給調整対策について
（２）情報交換等
（３）その他

４　検討結果
令和４年８月の政府の月例経済報告では、我が国の景気は緩やかに持ち直している中で、海外景気の下振れによる我が国景気への下押しリスクや物価上昇の影響に十分注意する必要があるとされている。
こうした中で、管内の原木価格についてみると、一部用途向けで高値安定している樹種もあれば、下落傾向が明らかとなっている樹種もあるなど、樹種による値動きにさらに差異が見られている。また、不安定な国際情勢等にあっても管内では輸入材の過剰感等もあり、高値を維持してきた原木価格も軟化傾向となるなど、不透明な状況となっている。
一方で、国産材需要は堅調さを維持しており、今後は製品生産事業の最盛期を迎え、原木供給や需要も増加する秋口を迎える中で、新設住宅着工戸数の動向など地域の木材需要動向に引き続き注視しながら、国有林材の安定的な供給に取り組むことが重要である。
なお、現時点において直ちに国有林材の供給調整を行う必要は無く、引き続き市場や需要者への安定的な供給に努めていくべきである。

５　委員意見等
〇西日本からの流入もありスギ・ヒノキを中心とした木材製品の価格の下落傾向が顕著である。しかし、中長期的に見れば、第３四半期は欧米からの日本向け輸出の減少が予想され、これにより外材在庫が払拭されれば、来春頃には多少価格が戻ると予想している。一方で合板については需要が高く、カラマツはこの先も高止まりで推移すると予想している。

〇丸太の安定供給のためには、労働力の確保が重要であり、安全に生産できる環境を整えられるよう対策をしていかなければならない。ウッドショック以来、全国的な生産量は増加傾向にあるが、木曽谷ではスギ・ヒノキの生産量が非常に落ちてきている。

〇住宅需要について、中小零細の地場工務店の受注量が落ちてきている。一棟当たりの価格が上がっており、小さな工務店は顧客に勧めづらくなっている。一方で、分譲系の不動産案件は多くなっている。大手ハウスメーカーが地方に進出してきていて、仕事がそちらに流れている。今年に入り、インフレで何でも高くなっており、それが住宅業にも響いてきている。

〇製材サイドとしては、減産はしておらず、資材が潤沢に供給されていることもあり、問題なく集材できている。山側に対しては、価格に左右されず、樹種の偏りが出ないような安定的な生産を行って頂きたい。

〇山側としては安定した木材生産をしていきたいと考えているが、今年は天候・地形等に非常に左右された。A･B 材だけでなく、C 材も非常に価格が高騰している。来年度、岐阜県内にバイオマス関連が３件完成するが、材が足りないということで取り合いが始まっており、チップの値段も上昇しているのが気がかり。

〇今までカラマツが高値で推移してきたのは、合板需要に支えられてのもの。１０月以降合板の生産調整の話が出てきており、不安材料が見え始めた。在庫量が増え、投げ売りをしている所も出てきた。倉庫に余裕がなく、安くても買い切れないという話も聞いている。不安材料は多いが、心強いのは中長期的に見れば期待感を持てること。今が一番苦しい時期という中で、今後を見据えて取り組んでいきたい。

〇昨年からのウッドショックを受けて商社系が大量に木材を輸入し、それがまだ港に滞留している状態。これをどのタイミングで処分するかが、これからの国産材に影響を及ぼすと考えている。加えて、円安の進行が続いており、スタグフレーションの傾向が出てきている。エンドユーザーの購買意欲がかなり落ち込んでいるため、１２月以降についてもかなり問題になってくると予想している。

〇岐阜県において、特にヒノキ A 材の単価下落が著しい。中国地方ではスギの価格を下回ったという話も聞く。その影響もあってかヒノキの生産量も減少し、ヒノキを扱う一部工場では原木不足が出てき始めた。
　中国地方では、木材流通の主が木材市場にあり、目先の丸太がだぶつくと、このような現象が起きてしまう。中部地区では、ある程度システム的に流通が動いているので、このあたりの変動が少ないと感じている。

〇住宅着工戸数が少しずつ下がっているというのは事実だろうと思うが、プレカット工場は自他共にそこまで落ち込んではいない。ということは、需要はそこまで大きく下がっているわけではない。以前ほど悲観することではないと思っている。

〇愛知県の状況は、在庫がものすごく積み上がっており、それをいつどのように処理すべきかタイミングを見ているような状況。外材一辺倒ではなく、国産材もやっていた方がいいということで、県の方にも相談がきている。木材利用に関して、カーボン

ニュートラルや SDGs が非常に注目されており、木を使おうという意識の高まりを感じているが、価格面･耐火面等の規制が厳しい部分もあり、なかなか需要には反映されていない。

〇住宅着工戸数に関する一つ問題として、施設整備をしたくても整備が間に合わないというのがある。乾燥機等の納期が１～２年かかってしまい、補助事業とも馴染みにくく悩んでいるところ。